# Sense of Coherence と多面的楽観性の関係

○磯和壮太朗（大阪大学大学院人間科学研究科）・三宮真智子（大阪大学大学院人間科学研究科）

キーワード：Sense of Coherence，首尾一貫感覚，楽観性

## 目　的

Sense of Coherence (SOC) は「把握可能感」・「処理可能感」・「有意味感」の 3 つの確信が核となり構成される「その人に浸みわたった，ダイナミックではあるが持続する確信の感覚によって表現される世界〔生活世界〕規模の志向性」として捉えられ,「把握可能感」は「自分の内外で生じる環境刺激は，秩序づけられた，予測と説明が可能であるという確信」,「処理可能感」は「その刺激がもたらす要求に対応するための資源はいつでも得られるという確信」,「有意味感」は「そうした要求は挑戦であり，心身を投入しかかわるに値するという確信」であるされる(Antonovsky,1987 山崎･吉井監訳，2001，p.23)。SOC は多くの研究で精神的健康に対する効果が明らかであることが示されている(Eriksson & Lindström，2006)。

SOC と楽観性との間には相関関係があることが示されている（Feldt，Mäkikangas，& Aunola，2006)。楽観性もまた，精神的健康を予測する概念であり，本邦では戸ケ崎・坂野（1993）が，楽観性が高いほど精神的に健康であることを示している。また，大石・遠藤・松山（2011）は楽観性の形成と SOC の形成の類似点を指摘している。従来，楽観性は 1 因子として扱われてきたが，安藤・中西・小平・江崎・原田・川井…崎濱（2003）は，先行研究で捉えられてきた楽観性の多面性を指摘し，多面的楽観性尺度を開発している。

大石他（2011）が示すように，SOC と楽観性との間には類似点があり，どちらも精神的健康を予測する。SOC は人生に対する志向性であり，楽観性を含有すると考えられる。SOC の精神的健康に対する効果は，楽観性によるものではないのだろうか？ 本研究では,この点を媒介分析によって検討する。

## 方　法

調査日時：2017 年 6 月中旬

被調査者：地方国立 A 大学の大学生 112 名

分析対象者：調査に同意し，欠損値のなかった 104 名

（男性：42 名，女性：62 名，平均年齢 18.24（*SD*＝0.47）歳）

調査内容（本稿で報告しないものは省略）

1. SOC：人生の志向性に関する質問票(Antonobsky，1987 山崎・吉井監訳，2001）のうち，短縮版を用いる場合に推奨されている 13 項目（SOC-13)。
2. 多面的楽観性：Multiple Optimism Assessment Inventory 4-subscale version（小平・安藤・中西，2003)。
3. 抑うつ：邦訳版 The Center for Epidemiologic Studies Depression Scale（島・鹿野・北村・浅井，1985)。

倫理審査：大阪大学大学院人間科学研究科教育学系の研究倫理審査を経て，倫理的に配慮し研究を行なった。

利益相反開示：利益相反関係にある企業などはない。

## 結　果

各変数間の関係を検討するため，相関分析を行った（Table 1)。その結果，SOC と多面的楽観性全体との間に有意な正の相関が示された。多面的楽観性の因子別に SOC との関係を見た場合,「困難の不生起」との相関のみ有意とはならなかった。抑うつと多面的楽観性との関係もほぼ同様であった。

Table 1.　基礎統計量と相関係数

| | *M* | *SD* | *α* | *Range* | 相関係数 SOC | 相関係数 抑うつ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| SOC | 3.82 | 0.68 | 0.71 | 1-7 | ― | -.59 *** |
| 抑うつ | 15.88 | 8.77 | 0.84 | 0-60 | -.59 *** | ― |
| 多面的楽観性 | 2.82 | 0.41 | 0.79 | 1-5 | .36 *** | -.32 ** |
| 割り切りやすさ | 2.61 | 0.76 | 0.84 | 1-5 | .33 ** | -.22 * |
| 肯定的期待 | 3.43 | 0.65 | 0.82 | 1-5 | .24 * | -.30 ** |
| 困難の不生起 | 2.76 | 0.71 | 0.75 | 1-5 | .06 | -.09 |
| 運の強さ | 2.49 | 0.64 | 0.72 | 1-5 | .23 * | -.15 |

*** $p<.001$ ** $p<.01$ * $p<.05$

SOC が抑うつに及ぼす影響が楽観性によって説明されるか否かを検討するため，媒介分析を行った。SOC を説明変数，抑うつを予測変数とし，多面的楽観性全体を媒介変数とした（Figure 1)。

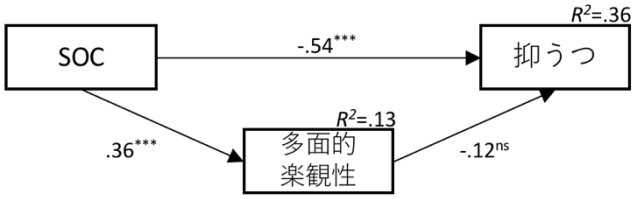


Figure 1　抑うつに対する媒介モデル

注）図中の数値は標準偏回帰係数を示す。各変数の誤差項は省略した。

***$p<.001$ ns$p\geq.05$

その結果，SOC から抑うつへの影響は多面的楽観性全体によっては媒介されず，多面的楽観性全体から抑うつへの影響も有意とはならなかった。

## 考　察

SOC と多面的楽観性の各因子との間には相関がある側面とない側面があり，それは抑うつと多面的楽観性の各因子との間に見られる相関と共通していた。また，SOC の持つ抑うつに対して及ぼす影響は，楽観性によって説明されるものではなく，むしろ楽観性が抑うつに対して及ぼす影響が SOC によって説明されるものである可能性が示唆された。

SOC と多面的楽観性との関係から，どのような要素が抑うつを低減するかの検討を進められると考えられる。そのためには，SOC を 3 下位因子で捉えることが必要であろう。

(ISOWA Soutarou，SANNOMIYA Machiko)